

1, 実況見分に際して

1-1 実況見分の意義

[違反処理標準マニュアル 第1 違反処理要領 4 警告・命令のための違反調査]

① 実況見分

- ア 実況見分は、違反事実の確認及び証拠保全のため、違反現場に出向し、直接、違反の状態や物の存在を現認し、調査することをいう。
- イ 実況見分の経過及び確認した結果を文書として記載したものが、実況見分調書である。
- ウ 実況見分調書の作成は、違反事実の確認を明らかにする場合や違反にかかる証拠保全のために必要な場合行う。

1-2 法的根拠

消防法第4条の立入検査権に基づくものである。

任意であり、強制するものではない。

下記の立入検査標準マニュアルの事項を確認する必要がある。

[立入検査標準マニュアル 第1 立入検査検査要領 4 検査の実施]

(1) 検査実施前に行う打ち合わせの内容

- ・スケジュール等の説明
- ・立会の依頼
- ・事前準備において不明確であった事項等の確認
- ・営業許可証等から関係者に関する情報の確認
- ・防火対象物の実態の変化についての確認
- ・その他必要な事項の確認
- ・立入検査の効率化への配慮

(2) 業務への配慮

- ・検査等において、みだりに防火対象物の関係者等の業務を妨害しない。

(3) 検査を拒否等された場合の対応

- ・防火対象物の一部分について検査を拒否等された場合は、拒否等する理由を確認する。
- ・検査の必要性や目的について丁寧に説明するなど、相手方を説得する。
- ・説得しても拒否等された場合は、期日を改めて出向する。

(4) 写真撮影等による違反状況の記録

- ・カメラの場合、相手方の同意を得た後、違反箇所を撮影する。
- ・カメラがない場合や相手方に撮影を拒否された場合は、図面を作成するなどして、違反状況を記録しておく。

1-3 実況見分の事前準備

[違反処理標準マニュアル 第1 違反処理要領 4 警告・命令のための違反調査]

② 実況見分の事前準備

ア 実況見分は、通常、見分者及び補助者で実施する。

見分者は、実況見分全体を指揮するため、事前に違反事実について整理し、何に見分の重点をおいたらよいか明確にしておく。

イ 補助者の任務

- ・見取り図の作成
- ・写真撮影
- ・距離や寸法の測定
- ・証拠資料の収集

ウ 主な使用器材

- ・カメラ
- ・筆記用具
- ・画板
- ・方眼紙
- ・メモ用紙
- ・メジャー
- ・方位磁石
- ・時計
- ・懐中電灯

1-4 実況見分時の留意事項

[違反処理標準マニュアル 第1 違反処理要領 4 警告・命令のための違反調査]

③ 実況見分実施時の留意事項

ア 実況見分は法第4条に規定する立入検査権などに基づき行うものとする。

イ 見分者は、現場を客観的に見分し、自己の先入観や過去の経験にとらわれず、ありのままの現場を見分する。

ウ 見分は、対象物の外周部から始め、次第に建物内部の細部に対して行う。

エ 見分内容をわかりやすく、具体的にするために、図面や写真を有効に活用する。